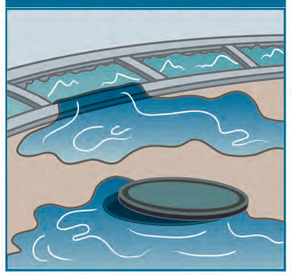
3-1. 風水害について

風水害の種類

内水氾濫

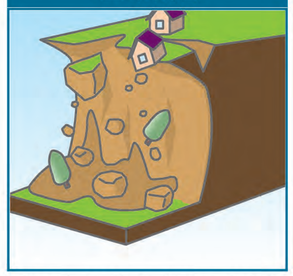


雨水の排水が追いつかず、水路や小さな河川、マンホールから水があふれる現象

洪水（外水氾濫）

余野川、箕面川、石澄川、神田川や猪名川等の水量が増え、水があふれる現象

土砂災害



がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）や土石流

竜巻

発達した積乱雲に伴う強い上昇気流によって発生する激しい渦巻き

大雨について

積乱雲

積乱雲は、大気の状態が不安定※な気象条件で発生しやすくなります。

※「大気の状態が不安定」とは上空に冷たい空気があり、地上には 温められた空気の層がある状態です。

まもなく、激しい雨と雷がやってきます。

川や低い場所からすぐに離れましょう。

積乱雲が発達すると

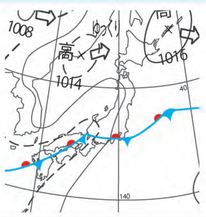
局地的大雨
急に強く降り、数10分の短時間に狭い範囲に数10mm程度の雨量をもたらします。

集中豪雨
同じような場所で数時間にわたり強く降り、100mm から数 100mm の雨量をもたらします。

線状降水帯
次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ 50 ～ 300km 程度、幅 20 ～ 50km 程度の強い降水を伴います。

前線の停滞

日本付近では6月頃に梅雨前線、9月頃に秋雨前線が停滞します。



台風の接近

台風は、強い風(特に中心より右側)とともに大雨を伴います。

内水氾濫と洪水（外水氾濫）

内水氾濫

【発生の仕方】
雨水を大きな河川へ流す排水が追いつかず、水路や小さな河川、マンホールから水があふれる現象です。
河川の水が排水路を逆流して起きる場合もあります。

【特徴・予測】
- 短時間の局地的大雨でも発生し、突如として浸水します。
- 事前の予測が困難であり、警報等が発表されていなくても発生する場合があります。

洪水（外水氾濫）

【発生の仕方】
大雨により大きな河川の水量が増え、堤防が決壊したり、堤防を越えて水があふれる現象です。

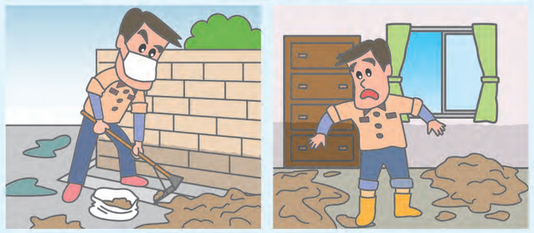
【特徴・予測】
- 雨が降っていなくても、上流域で大雨が降っていれば発生する可能性があります。
- 降雨状況や水位から比較的、事前の予測が可能です。

大雨が降り続くとどうなる？

道路の冠水

エンジンが停止したり、ドアが開かない等、車内から出られないことがあります。

床下浸水・床上浸水



流れ込んでくる水は泥水であり、水が引いた後も土砂や汚泥が堆積するため、片付けが大変です。

家屋の倒壊

河川沿いでは、家屋が倒壊し、命の危険性もあります。